様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６５８
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｈ０３０９２

研究課題名（和文）ジェンダー視点から見た農業経営体の経営継承意識に関する定性的研究

研究課題名（英文）research on farm succession from the gender perspective

研究代表者
原　珠里（HARA, Juri）

東京農業大学・国際食料情報学部・教授

研究者番号：３０３５５４６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　5,600,000円

研究成果の概要（和文）：直系家族制に基づく経営継承意識やジェンダー意識の変化を背景に、家族農業経営の女性への継承が増加しているとみられる。本研究では、事例の分析によりその実態を分析し当事者の意識を明らかにした。女性の農業後継者は、きょうだいの順序に関わらず存在しその就農経緯や動機は多様である。若い世代では、イエの継承とは分けて経営継承を認識していること、配偶者の農業従事は環境により必須ではないことなどが明らかになった。
一般の意識について把握するため、農林業者とそれ以外の職業に従事する対象者に対するWEB調査を実施した結果、農林業者の方が継承について保守的な意識をもつという結果は得られなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
国内的にはほぼ無視されてきた家族農業経営の女子への継承に光を当て、その実態や当事者の意識を明らかにした。このことにより、家族農業経営継承の持つ複雑な側面が改めて浮き彫りになり、今後の家族農業経営の存続に関する学術的議論に資することが期待される。
　社会的にも、女性に対する継承がどのような環境下で可能であったのか、事例的に示すことにより、女性への継承の道筋を示すことがきた。さらに、同様の問題意識をもつ海外の研究との交流を可能にする成果である。

研究成果の概要（英文）：　Against the background of changing attitudes toward management succession based on the direct family system and also changes of gender consciousness, succession of family farming operation to women appears to be increasing. In this study, we analyzed the actual situation and clarified the consciousness of the people concerned through analysis of case studies. Female successors to farming exist regardless of the order of siblings, and the circumstances and motives behind their farming are diverse. The younger generation has tendency to consider the succession of management separated from the succession of the family, and that the spouse's involvement in agriculture is not essential depending on the environment.
　A web-based survey of farmers and non-agricultural workers was conducted to understand the general awareness of farm management succession and family succession, and found no evidence that farmers have more conservative consiousness.

研究分野：農村社会学

キーワード：農業経営継承　女性　ジェンダー　継承意識　ジェンダー意識

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

（1）家族農業経営における後継者確保は、深刻な問題である。2000 年以降、同居後継者の流出や少子化等による世代交代の停滞は一層顕在化し、経営継承対策が家族経営の最大の課題であると認識されるに至っている。しかし、これまで農業後継者は長男が望ましいとする従来の直系家族的な規範を前提とした研究が一般的であり、女性後継者が継承するプロセスに関する研究は十分なされていない。

（2）実態をみると、2015 年農林業センサスによれば、「同居農業後継者がいる」農家の比率は 29.9%（主業農家では 31.2%）であり、そのうち 8.7%は「女の同居農業後継者がいる」（主業農家の場合９.1%）である。同居後継者のうち１割近くが女性であることは注目に値し、少子化を背景に女子後継者の選択が顧慮すべき水準にまで増加してきたと考えられる。

（3）さらに、ジェンダー視点からも一定の資産や将来の可能性を獲得する後継者という位置づけに女性がつくことは当然であり、欧米ではこの視角からの研究も少しずつ増えているが、日本ではまだほとんどみられない。農業経営の継承は、後継者になることが当然視されてきた長男にとって重荷となっている側面もあり、ジェンダー平等の観点からの検討が必要である。

（4）すでに女性の後継者、継承者が増えてきていることからその実態について明らかにすることが求められている。女性が農業経営を継承するケースについて、その実態と当事者の意識を探ることは、家族農業経営の存続とジェンダー平等のいずれの視角からも重要な課題である。

２．研究の目的

（1）本研究は、ジェンダー視点を導入し、女性の経営継承者・後継者を調査対象として定性的にアプローチすることにより、家族農業経営を女性が継承する事例の就農動機やその経緯等の特色と、当事者が前提とする経営継承意識を解明することを目的とする。

（2）さらに、イエの継承や農業経営の継承についての一般市民、農林業従事者の意識を質問紙調査により解明する。これらにより、ジェンダー要因を克服した家族経営継承メカニズムの実現への条件を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

(1) 経営後継者・継承予定者・継承者に対する聞き取り調査

家族農業経営の後継者､継承予定者､すでに継承した経営主に対して聞き取り調査を実施する。調査項目は①世帯や経営の概況、②職業選択に関する考えと準備状況、③農業経営の後継者となる経緯と背景、④農業経営継承に関する考え、⑤継承過程における家族等の考え方と関与、⑥婚姻状況と農業経営との関係、⑦「いえ」の継承の状況、⑧地域社会等周囲の状況、⑨現在かかえる課題等である。

(2)経営継承意識に関する WEB 調査

農林業者、それ以外の職業従事者に対して、経営継承意識に関する WEB 調査を実施する。聴き取り調査により抽出した経営継承に関する価値意識・ジェンダー意識に関して質問し、量的データを取得・分析することにより、どのような要因が意識を規定しているか分析する。

４．研究成果

(1)女性の経営後継者・継承者を中心とした聞き取り調査から得られた成果

先行研究では女性を対象とした経営継承に関する研究分析は少なく、対象選定に利用するのは困難である。そのため、雑誌や新聞記事、インターネットサイト等への掲載情報を利用し、またスノーボールサンプリングにより対象者を選定し調査を実施した。また男性の経営主、継承予定者に対する調査も実施した。その結果、以下の結果が得られた。

① 女性の後継者、継承者は日本の各地に分布している。特にどの地域に多いという傾向がある可能性は否定できないが、地域や作目に限定されない存在が確認できた。作目は稲作、野菜、果樹、花卉、畜産、酪農などの事例がみられた。

② 対象者の出生時のきょうだい構成については、男性のきょうだいがいる場合でも家族状況や職業選択意思により女性が継承している事例がみられること、しかし姉妹のみの事例が多いこと、その場合、長女には限定されないことが明らかになった。一方、男性のきょうだいがいる場合は、その男性が農業経営継承に関心がなく、他の職業を選択した（する）ということが、女性が後継者となる前提として語られ、男性を中心とした継承意識は残っていることが確認できる。

③ 対象者の就農経緯についてみると、職業としての農業への従事を幼少期から考えていた事例

や他の職業に従事した後で農業をより好ましい職業として選択した経緯のある事例がみられる。一方で、職業ではなく「いえ」の継承のため、家族の介護のためといった理由、また子育て環境や生活環境としての選好から農業への従事を決めた事例がみられる。

④　後継者・継承者の決断に至る経緯は、経営主の考えによる影響も大きいが、それだけではなくすでに現役を離れた祖父母世代の価値観に強く影響を受けている事例も見られる。最終判断は後継者・継承者本人であるが、明示的な家族全体の協議を経て合意形成を図った事例も多い一方で、相互の考えを十分理解しないまま継承が進み問題が起きた事例もみられる。関係者による合意形成のプロセスが重要であることが明らかになった。

⑤　既婚の場合の改姓は年代による傾向がみられる。中高年齢層では、女性の出生姓を名乗り「婿養子」をとったという表現をする対象がみられるが、若い世代では配偶者の姓を名乗る事例が多く、親世代からの要求やイエの存続にかかわる意識が変化していることが示された。

⑥　上記と関連して、若い世代ではイエの継承と経営継承は異なる論理によって判断されているとみられる。経営を継承予定の場合でも、イエを継承するかは未定であるという対象事例もある。婚姻や親の死去などのライフイベントがなければ決定されないのがイエの継承であるとも考えられる。
⑦　先行研究でも明らかにされているが、地域により「婿取り慣行」など継承慣行は異なる。本研究においても、地域の状況や伝統的意識が個別の決断に影響を与えているとの知見が得られた。

（2）WEB 調査結果から得られた成果
　調査対象者は農林業者とそれ以外の職業をもつ者を同数に調査協力依頼した。質問項目は、実家の継承の実態、イエの継承に関する意識、農業経営継承に関する意識、農業に対する考え等、全 35 問である。イエの継承については農家に限らないイエの継承がどのように認識されているのかをたずね、農業経営継承については農業者以外からも回答を求めることにより、現在の日本社会における継承意識について総合的にとらえられるようにした。　以下の成果が得られた。

①家族農業経営の後継者選択について、「長男が継ぐ」、「男子の中の誰かが継ぐ」、という回答は、農林業者もそれ以外でもいずれも 10%に満たず、農林業者では、「性別にかかわらず子どもの誰かが継ぐ」が 34%と最も高い回答率であった。伝統的な慣行である長男継承が望ましいとの意見表明はいずれの職業についても必ずしも一般的ではなくなっている。また、農林業の女性は「後継者がいなくても仕方がない」という回答比率が高い。継承に対する期待は、男性の方が高いとみられる。

②家族農業経営の後継者選択の重要な理由としては、「きょうだい順」でも「後継者の能力」でもなく、「後継者の意思」とする回答がいずれの職業グループでも 60%を超えた。これは、農業経営の困難等を背景としているとみられる。

③後継者決定の方法としては、「家族全員で話し合う」がどちらのグループでも 60%を超えた。特に女性においてこの回答率が高く、当事者全員の参加を求める傾向が明らかになった。

④本研究の中心テーマである女子が家族経営を継承することについては「まったく問題がない」という回答がいずれのグループでも６割を超え、「実際には難しい」は２割に満たなかった。「実際には難しい」と考える理由としては（自由記入）、性別に関わらず難しい、という回答のほか、体力や意欲、配偶者の問題、家事育児の負担、地域社会における伝統意識を上げた回答がみられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 稲垣 京子、原 珠里	４．巻 93
２．論文標題 ソーシャル・メディアを利用した女性農業者の社会関係資本形成	５．発行年 2021年
３．雑誌名 農業経済研究	６．最初と最後の頁 319～324
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11472/nokei.93.319	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 原珠里	４．巻 増刊号
２．論文標題 女性農業後継者の実態と可能性	５．発行年 2023年
３．雑誌名 農業協同組合経営実務	６．最初と最後の頁 38－47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 澤田守	４．巻 54(2)
２．論文標題 農業労働力の変化と経営継承	５．発行年 2023年
３．雑誌名 農林問題研究	６．最初と最後の頁 17－27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中丸京子	４．巻 67(1)
２．論文標題 農業・農村女性のネットワーク課題の変化と課題	５．発行年 2024年
３．雑誌名 農村生活学会	６．最初と最後の頁 60－69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 原珠里・堤マサエ・中丸京子
2．発表標題 現代日本における家族農業経営の継承ー意識とその規定要因ー
3．学会等名 第71回日本農村生活学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 中丸京子
2．発表標題 農業・農村における女性のネットワークの変化と課題
3．学会等名 第71回日本農村生活学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 原珠里、稲垣京子、堤マサエ
2．発表標題 女性による家族農業経営継承の実態
3．学会等名 第70回　日本農村生活学会大会
4．発表年 2022年

1．発表者名 稲垣京子・原珠里
2．発表標題 農業女子プロジェクトメンバーにとってのソーシャルメディア利用の意義
3．学会等名 第69回日本農村生活学会大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 稲垣京子・原珠里
２．発表標題 ソーシャル・メディアを利用した女性農業者の社会関係資本形成
３．学会等名 2021年度日本農業経済学会大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計3件

１．著者名 澤田　守	４．発行年 2023年
２．出版社 農林統計出版	５．総ページ数 150
３．書名 農業労働力の変容と人材育成	

１．著者名 山本　努	４．発行年 2022年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 242
３．書名 よくわかる地域社会学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	堤　マサエ (Tsutsumi Masae) (50105970)	山梨県立大学・国際政策学部・名誉教授 (23503)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	澤田　守 (Sawada Mamoru) (60355469)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・中日本農業研究センター・グループ長補佐 (82111)	
研究分担者	中丸　京子 (Nakamaru Kyoko) (00982761)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・本部・研究員 (82111)	
研究分担者	高橋　明広 (Takahashi Akihiro) (20355465)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・中日本農業研究センター・主席研究員 (82111)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関